

# 清沢の棚田で見つけたシカの奇形角

三宅 隆

静岡市葵区郊外の清沢棚田へ、昆虫の生息調査のために、平成7年5月1日に行きました。そこで、ムカシヤンマの姿を求めて、近くの林道を歩いていた当 NPO 事務局の横山謙二氏が、変わったシカの角のついた頭骨を見つけました。

普通、日本に生息するニホンジカの角は、角の先が細く尖っており、オスは、年齢によって、1尖から3尖4叉に分かれています。ところがこのシカの角は、下の写真のように、まるで、ヘラジカやダマシカのように、2尖から4尖の角の枝と枝の間が平らに繋がっていたのです。私は今まで奇形の角は、いくつも見てきましたが、殆どが片方の角の枝の異状というものでしたが、両方の角が、同じように変形しているのは見たことがありませんでした。まして、角の間が繋がって平らになっているのです。シカの調査をしている多くの専門家に聞いても、こんな角は今まで見たことがないと、異口同音に言っています。

これは、本当にニホンジカなのか？ それとも別種のシカなのかという素朴な疑問がわいてきました。

偶然にも、その後の8月頃、国内のニホンジカの雑種に関して調査をされている、神戸女学院大学生命環境部の高木俊人先生から連絡をいただき、この変形角の真贋を調べてもらうべく、角からの遺伝子解析（DNA 鑑定）をお願いしました。

その結果が今年の1月に送られてきました。結果は静岡にいるニホンジカの DNA と変わらないとの話でしたが、その調査結果について、高木先生から、学術的な文章をいただいたので、少し難しいかもしれませんが、そのまま掲載させていただきます。



見つけたシカの角



変形角



頭骨の落ちていた林道



骨の状況